

2020年度 広安愛児園事業報告書

1 基本理念

「神の家族」というキリスト教精神に基づくホーム(小舎)制による異年齢・男女一緒の家庭的養護をとおして、「共に生きる」「役に立つ心豊かな人」を目指した自立支援を行う。

2 基本方針

(1) 施設運営

ホーム担当制によるきめ細やかな関わりを継続し、様々な人間関係の中での家庭的養護(小規模グループケア、地位小規模児童養護施設)を実施することにより、子どもたちの福祉増進や自立支援強化に努めた。本年度も地域の有識者に苦情処理解決第三者委員を委嘱したほか、一時保護委託事業や、可能な限り地域からのショートステイ、トワイライトステイ委託事業に応じたり、体育館等の施設やグラウンドの開放、子ども会や夏祭りへの参加など、地域との連携、協力を大切にし、地域に貢献できるよう施設運営を行った。

(2) 児童支援

児童一人ひとりを承認し、自信を持たせることを重視し、そのことにより自己肯定感や自己有能感を少しでももつことができるよう継続して働きかけを行った。また、部活動を推奨し協調性や忍耐力、正しい自己表現力などの向上にも努めた。

一方、要望・意見箱の設置や毎月の聞き取り調査などにより虐待等の防止を図るとともに、苦情処理解決第三者委員会において、子どもや保護者から出された要望・意見を報告し、助言、意見をいただくことにより児童の基本的人権の尊重や児童のより良い支援に努めた。

(3) 職員育成

外部研修は、年間研修計画に基づき実施の予定であったが、新型コロナウイルスの蔓延によりほぼ全ての研修を中止せざるを得なかった。ただ後述するとおり、施設内虐待が発生したため、リモートによる児童の権利擁護に関する研修会を実施した。職員に対してはかなり意義深い研修になったと思っている。施設長よりこの研修の総括として、当法人の基本理念である「神の家族」「共に生きる、役に立つ心豊かな人」はまさに子どもの権利を守ることとリンクする理念であるということをも3月の職員会議で皆に伝え、今後も基本理念を決して忘れることなく、子どもに寄り添い、話を聴く姿勢を忘れないで欲しいとのことで締めくくった。

3 重点目標

(1) 児童の生命・安全を守る

令和2年度は新型コロナウイルスのパンデミックにより、ほぼ全ての行事を中止した。おそらく令和3年度も引き続きこの状況は続くと思われるので、手洗い・うがいの励行とマスク着用、不要不急の外出はできるだけ避けること、密な常態にならないことを、職員も子どもも徹底して行い、新型コロナウイルスの侵入を防ぎたい。

(2) 児童の権利擁護と施設内虐待の根絶

昨年度、ひとりの職員による施設内虐待が発生し、熊本県子ども家庭福祉課より厳しい指導を受けることとなった。2度とこのような事態が発生しないよう、児童の権利擁護に関する研修会を実施した。令和3年度も引き続き、児童の権利擁護研修、施設内虐待防止研修等実施したい。

(3) ハラスメントのない職場環境

ここ数年、ハラスメントの訴えはないが、職員全員が常にこのことを意識し、ハラスメントのない職場環境を整えるよう努力した。これは職員が長く努めることのできる職場としての環境整備にも繋がるものと思っている。

(4) 施設整備及び備品整備

熊本県より補助を受けて榎ホームの新築工事を行っていたが令和3年3月29日、無事完成し、4月1日より新しい榎ホームで地域小規模児童養護施設を運営している。

4 児童関係

(1) 入所児童（本園）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	32 (1)	34 (0)	35 (0)	35 (0)	34 (0)	33 (0)	33 (0)	33 (0)	33 (0)	36 (2)	36 (2)	37 (2)	413 (3)	87 %
入 所	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	9 (3)	
退 所	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (0)	11 (3)	
月末現員	31 (0)	34 (0)	35 (0)	35 (0)	33 (0)	33 (0)	31 (0)	33 (0)	36 (2)	36 (2)	37 (2)	33 (2)	405 (2)	84 %

(2) 榎ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	67	93 %
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
月末現員	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	4	66	92 %

(3) 福富ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	5	5	5	5	6	6	6	5	5	5	5	5	63	89 %
入 所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末現員	5	5	5	5	6	6	6	5	5	5	5	5	63	88 %

令和2年度 事業報告（自立支援）

令和3年3月31日

1. 日常生活支援

(1) 生活全般

今年度は、本園児童数33名、地域小規模施設児童数11名でスタートした。昨年度から継続して取り組んでいることとして、新型コロナウイルス感染防止対策がある。手洗いうがいの励行と児童と職員の健康観察及び検温、建物内の消毒、外出時のマスク着用を徹底した。それに加えて、児童及び職員に行動制限を呼び掛け協力を依頼した。取り組みの効果もあり現段階で感染者は発生しておらず、継続して感染防止対策を行っている。

自立支援については、今年度も自立支援計画の評価時期に合わせて、各ホームがケース検討会議の場で計画や評価内容を発表し、個々の子どもたちの生活・自立支援に職員全体であたるという意識づけを行った。また、今年度は権利擁護の観点から、児童の意思を尊重する目的で、部分的に自立支援計画で取り組む課題を児童と一緒に検討した。次年度は全体的に取り組めるように意識を高めていく。

子どもの安心・安全については、昨年度性的虐待事案で地域小規模施設に異動となった男性児童指導員が再度小学生女兒に対して不適切な対応があり、保護者と愛児園を管轄する熊本県、児童の措置権者である熊本市に報告を行った。心理的虐待事案として処理され、行政より男性指導員が所属するホームの担当職員や入所児童への聞き取りを実施後、男性指導員は自主退職した。被害児童への対応として、園内心理士が継続的にカウンセリングを実施し心理的ケアを行った。

子どもたちからの要望や意見については、要望解決第三者委員会を定期的に開催し、内容をオープンにした上で、できるだけ要望や意見に沿うことができるよう、あるいは要望に沿えない場合もより適切な解決が図れるよう努めた。

(2) 学校生活

○幼稚園

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、担当者間の対面での個別懇談は行わず、主に連絡帳を通じて幼稚園と園が相互に情報交換を行った。

○小学校

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、月に1回のペースで実施していた懇談会は行わず、担当者間で必要に応じて連絡帳や電話連絡を主な手段として情報交換を行った。

○中学校

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、担当者間で必要に応じて情報交換と情報共有を行った。

○高等学校

担当職員が担任教師と随時電話で情報交換を行いながら支援にあたった。今年度は高校

を卒業する児童は5名で、全員大学や専門学校に進学した。

2. 児童会・高校生会の実施

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて屋外で児童会を行った。内容は例年同様、学校の長期休業前後の生活の切り替え時期に、生活上の約束事を確認することを目的として実施した。

高校生会は児童会とは別に位置付け、高校生活が学業を本分とするもので実社会への自立準備の期間であることについて確認する機会とした。また、高校生の園内における位置づけを明確にしなが、下級生達のよき手本となるよう職員の期待感も含めてアドバイスをを行った。アルバイトや携帯電話の所持についても、高校生として自覚を持ったうえで適切に使用するよう指導を行った。そして、これらのことを職員からの指示や制限と捉えるのではなく、それを踏まえて自らの行動や時間を主体的に創造すると共に、自分の行動には責任を持つように意識付けを図った。

3. 学習支援

(1) 公文学習

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて学習時間を設けた。学習中はマスクを着用し、児童同士の間隔を広げて感染防止対策に努めた。

(2) 学習支援ボランティア

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて対面での学習から「ZOOM ミーティング」を利用したリモートでの学習に切り替えながら行った。

4. 情操教育支援

今年度も情操教育の一環として、また将来自分が趣味として長く続けていくことができるものを身につけることを目的に園全体として推進した。今年度は、昨年から継続して1名の児童と、新たに1名の児童が地域のスポーツクラブに所属して活動に参加した。

5. 交通安全教室の実施

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、外部講師は招かずに学齢ごとに内容が違うDVDの鑑賞を行った。鑑賞後、児童それぞれが感想を綴った。

6. 避難訓練等安全管理

毎月1回、各ホームと厨房、園内保育所を出火想定場所として避難訓練を実施した。訓練では、児童の避難誘導を最優先としているが、可能な範囲で消火活動を同時に行えるように役割分担に心掛けた。また、園内設置遊具及び危険箇所等については毎月点検しチェックを行った。

7. 性教育

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、異性あるいは異年齢ごとに児童を集めての実施は控えた。必要に応じて、ホーム単位や新規入所児童にスポットを当て、性教育のグループワークを実施した。また、卒園を控えた高校3年生の児童に対して対人関係のスキルアップや避妊方法、異性との交際をテーマとしたワークを実施した。

8. 情報教育

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い外部講師を招いての研修会は行わなかった。但し、新規で携帯電話を購入する児童に対して、個別に情報提供を行った。

9. 地域行事・招待行事への参加

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、年間を通して地域行事への参加と外部からの受け入れを行わなかった。クリスマス行事に関しても、各ホーム単位で児童と職員のみで会食を行った。

10. 高校生自立支援

高校生の自立支援については、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、年間を通してNPO法人ブリッジフォースマイルの協力により、「ZOOM ミーティング」を利用してリモートでの学びの場を設けた。

11. アルバイトについて

今年度は、新型コロナウイルスの影響の中、社会的な自立訓練と卒園後の生活費や学費の貯蓄を目的として、感染防止対策を十分に意識させながら高校生にアルバイトを許可した。

12. 携帯電話について

今年度は新規に5名の児童が携帯電話を契約し所持した。その内、3名の児童は、ソフトバンク（株）が運営する児童養護施設入所児童向けの「みらいスマイルプロジェクト」の携帯端末無料貸出しの応募に申し込み、約半年間サポートを受けることが出来た。昨年と同様に、通話料の支払い問題や架空請求、友人・異性間のトラブルなど大きな問題は報告されなかった。

以上

令和2年度 事業報告（行事・会食等）

令和3年3月31日

	行事名	参加者	活動内容
4月	進級入学祝い		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	広安西小学校 家庭訪問		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	益城中学校 家庭訪問	愛児園：職員1名 中学校：全職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い家庭訪問は行わず、代わりに主任児童指導員が益城中学校に出向き、中学校教職員に対して愛児園の概要を説明した。
	創立記念礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	卒園生の会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
5月	ダルマの会杯 球技大会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	こどもの日会食		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
6月	花の日合同礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い不参加。
	ボランティア米田植え		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い不参加。
7月	プール開き (18日)	全児童 勤務職員	今期のプールシーズンの安全を願いプール開きを行った。プールの使用ルールや注意事項などを説明した後は、職員監視の下、子ども達が初泳ぎを楽しんだ。同時に消防署員指導の下水難事故防止教室を実施した。
	熊本県児童福祉 施設球技大会	小4～高校生女兒 監督職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、大会を縮小し交流試合という形で11月に実施した。児童に参加希望を募り女子のバレー競技のみの参加となった。
	JCHIP インターシップ		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
8月	小峯地区夏祭り		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	夏休みさよなら パーティー		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。代替行事として、夏休み終了時期に園内の中庭で全員でBBQを行った。
10月	熊本平成ロータークラブ 交流会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
11月	熊本県養護施設 秋季スポーツ大会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	小児祝福式 健軍教会バザー		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	中岳登山		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。

12月	教会学校合同 クリスマス礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	クリスマス祝会	全児童 全職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、児童と職員のみで実施した。安井牧師を招き野外礼拝堂で礼拝を行った後、各ホームで会食を行った。
	餅つき		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	年末大掃除	小学生～高校生 勤務職員	各ホームと、日頃児童が利用する体育館とコイノニア、パウラスホームをグループに分かれて掃除を行った。
1月	祝膳・初詣 (1日)	未帰省児童 勤務職員	正月帰省期間に帰省が困難な子ども達とコイノニアで祝膳。新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、職員の手作り料理は持ち寄らず、ホテルキャッスル等から寄贈のおせち料理のみをいただいた。祝膳後は小グループに分かれて初詣に出掛けた。
	児童外出行事		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	児童新年会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
3月	園内保育所 卒園式 (24日)	幼児 担当職員	幼稚園年長児5名の卒園を祝って、保育証書の授与と記念品に筆箱や弁当箱の贈呈を行った。卒園児より感謝の言葉があり参加者は感動した。式後は記念撮影を行った。
	ホーム活動	全児童・担当職員 (ホーム単位)	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、各ホーム単位で1人2万円の予算で実施した。児童に希望を取り、密集を避けた目的地を設定し、日帰りでフルーツ狩りや家族温泉に出掛けて良い思い出を作ることができた。また、担当職員との関係も深まる活動となった。